

インターネットの中での 誹謗中傷・悪口について

インターネットの利用が一般的になった昨今、誰もが誹謗中傷や悪口の被害者、そして加害者になりかねません。子どもがトラブルに巻き込まれないためには何を知っておけばよいのでしょうか。



被害者になるケース（子どもが誹謗中傷の被害に遭ってしまったら？）

一番怖いのは誹謗中傷されている、悪口を言われているということを本人が明かしてくれないケースです。被害を受けていることを周りの大人が知ることができなければ、助けてあげることもできません。まずは「何かあったら話してね」ということを日常的に伝え、子どもの異変に早めに気づいてあげることが大切です。

実際に誹謗中傷や悪口を受けていることがわかった場合、



①相手にしないことが一番だと教えましょう。

特に匿名の誹謗中傷は相手にするだけ時間の無駄ですので無視できるようにすることがポイントです。

②投稿を消したい場合、サイトへの削除依頼などの対応が必要です。インターネットに詳しくない場合は本サイト（下記参照）でも相談に乗ることができますので、お気軽に活用してください。

加害者になるケース（子どもが誹謗中傷や悪口を書き込んでしまったら？）

①書き込んだ投稿はすぐに自分で削除させるようにしましょう。

誹謗中傷の投稿は名誉棄損罪や侮辱罪に問われる可能性があります。

②「なぜやってはいけないのか」を考えられるようになる必要があります。

根本的な解決に向けて、子どもと一緒に、自分や自分の大切な人が同じように誹謗中傷されていたらどう思うかを考えてみるというのも効果的です。



ポイント

インターネット利用のことを、日常的な話題として、子どもたちの利用状況の理解に努め、子どもたちが普段と違う様子を見せたら、インターネット利用のことも念頭に話しかけるなどすることも大切です。子どもたちはインターネットの中では気が大きくなってしまったり、軽い気持ちで書き込みしてしまう子もいます。誹謗中傷や悪口は絶対ダメ！！ということを教えましょう。